

大林組技術研究所本館テクノステーション「WELL認証」の取得

吉野 攝津子

Techno-Station awarded the first WELL Certified™ project in Japan

Setsuko Yoshino

Abstract

The WELL Building Standard™(WELL) is the premier building standard for buildings, interior spaces, and communities seeking to implement, validate, and measure features that support and advance human health and wellness. The primary building of the Obayashi Technical Research Institute, “Tecno-Station,” is the first WELL Certified™ project in Japan at the Gold level as well as the first WELL Certified New and Existing Building project in the world. To obtain WELL Certification, the building’s energy conservation ability, which gained a high rating on CASBEE and LEED, and the indoor environment underwent a re-evaluation from the perspective of WELL. The user flow inside the workspace, the surrounding natural environment, the working style of the residents, and the cafeteria menu are included in the evaluation criteria. This report introduces the outline of WELL and the implementation of WELL Features into the project.

概要

WELL Building Standard™による認証(以降, 「WELL」)は, 世界ではじめて建物内の居住者や執務者の健康に焦点を当てた米国発の建物・室内環境評価システムである。2014年にVer. 1が公開されてから, 北米, ヨーロッパ, 中国, オーストラリアのハイエンド物件を中心に急速に普及拡大している。大林組技術研究所本館「テクノステーション」は, 2017年11月に日本初となるWELLを「ゴールド」ランクで取得した。WELLのプロジェクトタイプのうち, 建物全体を評価する区分では世界初取得である。認証取得を目指すに際し, CASBEEやLEEDで高く評価された省エネルギー性能のみならず, 室内環境を健康の観点で再評価した。具体的には, オフィス内の動線や周辺の自然環境, 人々の働き方やカフェテリアのメニューに至るまで基準適合に向けて対応策を検討した。本報ではWELLの概要と大林組技術研究所本館の認証取得に向けた対応内容について紹介する。

1. はじめに

近年, 日本では「働き方改革」など労働や経営を取り巻く環境の変化を受け, 建築環境に「健康」を取り入れる動きが加速している。建築の環境性能についての認証制度は, 日本のCASBEE®, 米国のLEED, 英国のBREEAMなどが普及しているが, 建物利用者の健康に焦点を当てた米国発の新しい認証制度, WELL Building Standard™(以降, 「WELL」)への関心も高まっている。大林組技術研究所本館「テクノステーション」(以降, 「本館」)は, 2017年11月に日本初となるWELLを「ゴールド」ランクで取得した(Fig. 1)。WELLのプロジェクトタイプのうち, 建物全体を評価する区分では世界初取得である。

WELLは公益企業IWBI (International WELL Building Institute, PBC)により2014年にVer. 1が公開され, 運用開始以降, 北米, ヨーロッパ, 中国, オーストラリアのハイエンド物件を中心に急速に普及拡大している。2018年7月4日現在の累計の申請件数は932件(34ヵ国)で, そのうち106件(14ヵ国)が認証を取得している。日本での申請件数は9件で, 認証を取得しているのは本館1件のみである。

本館は2010年の完成以来, 最新鋭の研究環境を提供するオフィスビルとして, 省エネルギーと快適性, 知的生産性とを両立すべく運用してきた。本館のWELL取得は,

CASBEEやLEEDの認証で高く評価された省エネルギー性能のみならず, 健康の観点でも先進的であることを示すものである。WELL取得を目指すに際し, 室内環境を健康の観点で再評価するとともに, オフィス内の動線や周辺の自然環境, 人々の働き方やカフェテリアのメニューに至るまでも評価対象として, 基準適合に向けて対応策を検討した。本報では, WELLの概要と本館での認証取得に向けた対応内容について紹介する。



Fig. 1 WELL 認証「ゴールド」ランク認証状
WELL Certified™ Gold

2. WELLの概要¹⁾²⁾³⁾

2.1 認証システムの枠組み

WELLでは、評価対象施設や区域を「プロジェクト」とよぶ。Ver. 1の場合、プロジェクトタイプには、「新築/既存建物版」「新築/既存インテリア版」「コア&シェル版」の3種類がある。認証ランクは3段階あり、必須項目全てを満たすと「シルバー」、必須項目全てと加点項目の40%以上を満たすと「ゴールド」、同様に加点項目の80%以上を満たすと「プラチナ」が付与される。Table 1に示すように評価項目数はプロジェクトタイプで異なる。

WELLの対象用途をTable 2に示す。Ver. 1標準版は事務所ビルを対象としているが、他用途を対象としたテスト運用中のパイロット版もある。なお、あらゆる用途への適用を想定したVer. 2のパイロット版が2018年5月に公開されており、同年度中の正式運用開始が予定されている。

2.2 評価項目

WELL Ver. 1の評価項目をTable 3に示す。評価項目は「Air(空気)」、「Water(水)」、「Nourishment(食物)」、「Light(光)」、「Fitness(フィットネス)」、「Comfort(快適性)」、「Mind(こころ)」の7つのConcept(大項目)で構成される。Conceptの下位項目としてFeature(中項目)、Part(小項目)がある。以下に各Conceptの主な評価内容を記す。

- 1) Air 室内空気質
- 2) Water 水道水の水質や飲料水の利用しやすさ
- 3) Nourishment 建物内で提供される飲食物の栄養管理や成分表示
- 4) Light 昼光利用や照明制御
- 5) Fitness 建物内外での運動の促進
- 6) Comfort 温熱快適性や執務室内外での働きやすさおよび過ごしやすさ
- 7) Mind ストレス対策や景観および企業制度

建築・設備計画だけではなく、運用面も評価対象としている点が特徴的である。さらに、まだWELLでは取り上げられていない革新的な取り組みは、WELLのConceptの意図に合致しており、科学的、医学的、産業的な研究によって根拠が示され、法規や慣行に矛盾がなければ、「Innovation(イノベーション)」として最大5項目のボーナスポイントが得られる。

2.3 認証取得までの流れ

認証取得までのステップは大きく①申請、②書類審査、③現地性能検証、④認証取得の4段階に分かれる。認証の有効期限は3年であり、認証を維持するためには、認証取得3年以内に再認証を申請する必要がある。

2.4 審査方法

第三者機関であるGBCI(Green Business Certification Inc.)の評価員が審査を行う。Table 4に示すように、書類審査と現地性能検証がある。現地性能検証では、空気質、

Table 1 プロジェクトタイプと評価項目数(Ver. 1)
Project Typology and Number of Evaluation Items (Ver. 1)

プロジェクトタイプ	評価対象	評価項目数		
		必須	加点	全体
新築/既存建物版 -New and Existing Buildings-	建物全体	41	59	100
新築/既存インテリア版 -New and Existing Interiors-	テナント部分	36	62	98
コア&シェル版 -Core & Shell-	オーナー所掌部 (共用部等)	26	28	54

参考文献 1)を基に作成。

Table 2 WELL 認証の対象用途(Ver. 1)
Targeted Building Types (Ver. 1)

評価版	対象用途
標準版	事務所ビル
パイロット版 [Pilot]	・集合住宅・教育施設・物販店舗・レストラン・商業用キッチン・コミュニティ(街区レベル)
パイロット運用準備中 [Future Pilot]	・スポーツ/フィットネス/レクリエーション施設 ・大規模公共空間(空港、スタジアム、コンベンションセンター)・ヘルスケア施設
ALL PROJECTS IN	Ver.1標準版やパイロット版でカバー出来ない用途。評価項目をIWBIと調整してカスタマイズする。

参考文献 1)を基に作成。

水質、光環境、音環境、温熱快適性の測定が行われ、設計要件と運用要件が目視検査される。

WELLはプロジェクトが各評価項目の規定する要件にそのまま適合できない場合、AAP(Alternative Adherence Path)とよばれる代替適合手段の適用を認めている。AAPは、規定された要件と同等の性能を有することを科学的・医学的に裏付けることで承認を得るしくみである。

3. 本館における認証取得

3.1 プロジェクト概要

プロジェクト概要をTable 5に示す。本館は、作業領域に集中して照明・空調制御を行うタスクアンビエント方式、ICタグによる個別制御、パーソナル放射空調、昼光利用トップライト、自然換気などの省エネルギー手法が導入されたオフィスである。幅90m、奥行き18m、天井高6.4mの大空間に専門分野の異なる執務者が在籍するワンルーム型の空間計画が成されており、ミーティングスペース、個人ブース、などの多様な空間が設けられている。加えて、コミュニケーションの場としてミーティングスペース、給湯スペース、什器スペースをフロア外周部に配置している。Photo 1に本館の外観および内観を示す。

Table 3 WELL の評価項目(Ver. 1)
Seven Concepts and Features of the WELL Building Standard (Ver.1)

Concept(大項目)	必須項目	加点項目
Air (空気)	1)空気環境基準, 2)禁煙, 3)効率的な換気, 4)VOC低減, 5)空気ろ過, 6)微生物とカビ制御 7)建設段階の汚染管理, 8)健康に配慮した入口, 9)清掃手順, 10)農薬殺虫剤管理, 11)基本的な製品の安全性, 12)湿気の管理	13)エアーフラッシュ, 14)気密性管理, 15)換気量の増加, 16)湿度制御, 17)発生源の直接的換気, 18)空気質のモニタリングフィードバック, 19)開閉可能な窓, 20)外気システム, 21)置換換気, 22)害虫防除, 23)高度な空気浄化, 24)燃焼の最小化, 25)有害物質の低減, 26)強化された材料安全性, 27)表面の抗菌, 28)清掃しやすい環境, 29)清掃用具
Water (水)	30)基本的な水質, 31)無機汚染物質, 32)有機汚染物質, 33)農業汚染物質, 34)上水添加物	35)定期的な水質検査, 36)水処理, 37)飲料水摂取の促進
Nourishment (食物)	38)果物と野菜, 39)加工食品, 40)食物アレルギー, 41)手洗い, 42)食品の汚染, 43)人工的原材料, 44)栄養成分表示, 45)食品広告	46)安全な調理器具, 47)一人前の分量, 48)特別食, 49)責任ある食品生産, 50)食品の保管, 51)食品生産, 52)心豊かな食事
Light (光)	53)ビジュアル照明デザイン, 54)サーカディアン照明デザイン, 55)人工光のグレア制御, 56)太陽光グレア制御	57)低グレアワークステーション設計, 58)色の品質, 59)表面デザイン, 60)自動遮光と減光制御, 61)昼光を受ける権利, 62)昼光モデリング, 63)採光窓
Fitness (フィットネス)	64)屋内のフィットネスとしての動線, 65)活動へのインセンティブプログラム	66)体系的なトレーニングの機会, 67)外部空間の活動的なデザイン, 68)運動スペース, 69)アクティブ通勤への支援, 70)フィットネス器具, 71)アクティブな家具什器
Comfort (快適性)	72)アクセシブルデザイン規格, 73)エルゴノミクス-視覚的および身体的事項, 74)外部騒音の侵入, 75)内部発生騒音, 76)温熱快適性	77)嗅覚の快適性, 78)残響時間, 79)サウンドマスキング, 80)吸音面, 81)遮音, 82)個別温度制御, 83)輻射による温熱快適性
Mind(こころ)	84)健康とウェルネス意識, 85)インテグレイティブデザイン, 86)入居後調査, 87)美しさとデザイン I, 88)バイオフィリア I - 質について	89)適応性に優れた空間, 90)健康的な睡眠のポリシー, 91)出張, 92)建物における健康のポリシー, 93)職場における家族サポート, 94)自己モニタリング, 95)ストレスと依存症への対処, 96)利他的行為, 97)材料の透明性, 98)組織の透明性, 99)美しさとデザイン II, 100)バイオフィリア II - 量について

参考文献1)を基に作成。)内番号は項目番号を示す。

Table 4 審査方法
Documentation Review and Performance Verification Items

書類審査	1. 注釈付の文書 Annotated documents	A 設計図面, B 運用スケジュール, C ポリシーに関する文書, D 説明書や調整報告書を含む, その他資料
	2. 保証状 Letter of assurance	A 建築家, B 施工者, C エンジニア, D オーナー
	3. 一般文書 General documents	A 代表的な階の平面図及びプロジェクトマップ, B 機械設備の図面, C プロジェクトの概要ならびに試みた機能のリスト
現地性能検証	1. 性能試験 Performance test	空気質, 水質, 照明, 音響, 熱パラメータ
	2. 目視検査 Visual verification	設計要件, 運用要件
	3. スポットチェック Spot checks	設計要件と運用要件の代表的なサンプルの目視検査

参考文献 1)を基に作成。



Photo 1 本館の外観および内観
External and Internal Appearance of Main Building

Table 5 プロジェクト概要
Overview of the Project

建物概要	所在地	東京都清瀬市
	建物用途	事務所
	延床面積	5,535 m ²
	構造・規模	S造 地上3階
	竣工	2010年 9月
	環境性能評価	CASBEE既存Sランク(BEE=7.0) LEED-EBOM Platinum (95points)
認証システム	WELL Ver.1 2016年5月追補版	
認証取得 スケジュール	申請	2016年7月15日
	書類審査申請	2017年5月2日
	書類審査承認	2017年7月27日
	現地審査	2017年9月26日～29日
	認証取得	2017年11月21日

3.2 対応内容

WELLは米国発の認証システムのため、異なる社会・文化的背景に基づく達成基準や適合要件を含む評価項目が多数存在する。国内プロジェクトへのWELL導入を推進するためには、国内基準と異なる要求事項への合理的な対応手法を検討する必要がある。そこで、WELLの要

件を満たさない項目については、改修工事を行わずに、AAPの適用ならびに物品などの追加変更と運用面で承認を得る方針とした。認証取得に向けて、本館の建築・設備計画、運用計画をWELLの7つのConceptに読み替えた上で、対応方法を検討した。主な対応内容をTable 6に示す。

Table 6 主な対応内容
Implementation of WELL Features into the Project

対応項目・内容	評価の意図と要件
●喫煙所の撤去 [Air(2)] 2Fテラスの喫煙所を撤去し、喫煙の有害性を示すサイネージを掲示。	喫煙を抑止し、建物使用者の受動喫煙への暴露を最小限に抑え、タバコによる煙害を低減することを目的として、テラスや屋上を含む建物内禁煙を規定。また、屋外においても、出入口、開閉可能な窓、建物の外気取り入れ口から7.5m以内での禁煙を規定。
●フィルタの交換 [Air(6)] 本館近傍の東京都環境局の測定局のデータが外気基準を満たさなかったため、外気用のフィルタを既存の中性性能フィルタからMERV13フィルタに更新。	空気ろ過によって屋内および屋外の浮遊汚染物質を除去することを目的として、換気システムの外気用にMERV13以上のフィルタの設置を規定。ただし、1月から12月までの95%の期間において建物から1.6km以内の外気のPM2.5、PM10レベルがWELL基準(それぞれ、15μg/m3未満、50μg/m3未満)を満たせば設置不要。
●メニューの追加 [Nourishment(39)] 全粒穀物が主成分の食品をカフェテリアで提供するため、五穀米メニューを追加。	建物使用者が高度に加工された原材料や食品の摂取を避けられるように、敷地内で販売または提供される食品について精製成分を規制。
●成分表示 [Nourishment(40,4)2] カフェテリアメニューに食物アレルギー表示、人工成分表示を実施。	建物利用者が、潜在的な食物アレルギーの摂取を避けられるように敷地内で販売または提供される食品について、食物アレルギー表示を規定。また、食品に含まれる着色料、甘味料、および保存料の摂取を避けられるように、人工添加剤の表示を規定。
●手洗い用備品の整備 [Nourishment(41)] 全てのシンクにペーパータオルと使い捨て密封容器の非抗菌石けんを設置。	衛生的な手洗い設備の使用による、病原体伝播の抑制を目的として、手洗い用備品を規定。濡れた手はハンドドライヤーで乾燥させるよりもペーパータオルで拭く方が細菌の除去に効果的であること、また、大型の補充式ディスペンサーに入った液体石けんは細菌汚染が起こりやすい傾向にある。
●スタンディングデスクの導入 [Comfot(73)] スタンディングデスクを執務席やミーティングスペースに規定数導入。コストダウンを図るため、卓上設置型、簡易型のものを導入。	長時間に渡って固定された家具や機器に合わせ続けるため同じ筋肉や靱帯を酷使することは、身体の不快感や負担をもたらし、快適性を損ね、集中力を低下させる恐れがあることから、スタンディングデスクをオフィスの執務席の30%以上に導入し、自由にワークスタイルを選べるようにすることを規定。

3.3 審査結果概要

書類審査と現地性能検証を経て、最終的に必須の41項目全てと、ゴールドランクの達成要件24を超える、27の加点項目を取得した。現地性能検証の結果をTable 7およびTable 8に、7つのConceptの審査結果の概要を以降に示す。

3.3.1 Air 必須項目を12項目全て、加点項目を17項目中6項目取得した。CASBEEやLEEDで高評価を得た空調換気システムならびに、病原体、アレルギー、およ

び有害な化学洗浄剤の建物使用者への暴露を抑制する清掃計画は、高い屋内空気質を確保する施策として評価された。現地性能検証における揮発性物質、微粒子状物質、ラドンの基準に適合した。

3.3.2 Water 必須項目を5項目全て取得した。加点項目は取得していない。従前どおりのビル管理法への対応のみで、現地性能検証における基本的な水質、無機汚染物質、有機汚染物質、農業汚染物質、上水添加物の基準に適合した。

Table 7 現地性能検証計測結果(空気質, 水質)
Results of Performance Test (Air and Water)

Results of Performance Test (Air and Water)

【空気質】									
01 空気質基準	ホルムアルデヒド ⁺ [ppb]	TVOC [μg/m ³]	CO [ppm]	PM2.5 [μg/m ³]	PM10 [μg/m ³]	オゾン [ppb]	ラドン [pCi/L]	判定	
WELL基準	< 27	< 500	< 9.0	< 15.0	< 50.0	< 51.0	< 4.0		
メジャー測定ポイント1	15	200	0.2	2.03	6.14	0.0		適合	
メジャー測定ポイント2	18	200	0.2	2.03	10.82	0.0		適合	
マイナー測定ポイント1			0.6	0.43	2.00	0.0		適合	
マイナー測定ポイント2			1.8	2.01	3.78	18.0		適合	
ラドン測定ポイント1～9							< 0.3	適合	
【水質】									
30 基本的な水質	濁度	全大腸菌群	大腸菌	判定					
WELL基準	< 1.0 NTU	ND	ND						
給湯エリア1	0.08	ND	ND	適合					
給湯エリア2	0.07	ND	ND	適合					
トイレ1	0.16	ND	ND	適合					
トイレ2	0.06	ND	ND	適合					
トイレ3	0.08	ND	ND	適合					
シャワールーム	0.04	ND	ND	適合					
ND=not detected									
31 無機汚染物質	鉛 [mg/L]	ヒ素 [mg/L]	アンチモン [mg/L]	水銀 [mg/L]	ニッケル [mg/L]	銅 [mg/L]	判定		
WELL基準	< 0.005	< 0.01	< 0.006	< 0.002	< 0.012	< 1.0			
給湯エリア1	< 0.001	< 0.001	< 0.0015	< 0.00025	< 0.001	< 0.1	適合		
給湯エリア2	< 0.001	< 0.001	< 0.0015	< 0.00025	< 0.001	< 0.1	適合		
32 有機汚染物質	スチレン [mg/L]	ベンゼン [mg/L]	エチルベンゼン [mg/L]	ポリ塩化ビフェニル [mg/L]	塩化ビニル [mg/L]	トルエン [mg/L]	キシレン (m, p, o合計) [mg/L]	テトラクロロエチレン	判定
WELL基準	< 0.0005	< 0.001	< 0.3	< 0.0005	< 0.002	< 0.15	< 0.5	< 0.005	
給湯エリア1	< 0.0005	< 0.001	< 0.001	< 0.0005	< 0.0002	< 0.001	< 0.001	< 0.001	適合
給湯エリア2	< 0.0005	< 0.001	< 0.001	< 0.0005	< 0.0002	< 0.001	< 0.001	< 0.001	適合
33 農業汚染物質	アトラジン [mg/L]	シマジン [mg/L]	グリホサート [mg/L]	2,4-ジクロロフェノキシ酢酸 [mg/L]	硝酸塩窒素 [mg/L]	判定			
WELL基準	< 0.001	< 0.002	< 0.70	< 0.07	< 10				
給湯エリア1	< 0.001	< 0.002	< 0.70	< 0.07	< 0.5	適合			
給湯エリア2	< 0.001	< 0.002	< 0.70	< 0.07	< 0.5	適合			
34 上水添加物	残留塩素 [mg/L]	残留クロラミン [mg/L]	総トリハロメタン [mg/L]	総ハロ酢酸 [mg/L]	フッ化物 [mg/L]	判定			
WELL基準	< 0.6	< 4	< 0.08	< 0.06	< 4.0				
給湯エリア1	0.1	-0.02	< 0.01	< 0.008	< 0.08	適合			
給湯エリア2	0.01	0.14	< 0.01	< 0.008	< 0.08	適合			
シャワールーム	0.12	0.06				適合			

Table 8 現地性能検証計測結果(光環境, 快適性)
Results of Performance Test (Light and Comfort)

【光環境】

53 ビジュアル照明デザイン (アンビエント照明)

WELL要件	測定結果	判定
アンビエント照明システムは、床仕上り面から0.76 m上の水平面で測定して、平均光強度215 lux以上	602.9 lux	適合
アンビエント照明が300 lux未満の場合は要望に応じてタスクライトを使用し、作業面300～500 lux確保	アンビエント照明>300 Lux	適用外

54 サーカディアン照明デザイン

WELL要件	測定結果	判定
床仕上り面から1.2 m上の前方鉛直面で測定した照度が200等価メラノピックルクス以上(自然光有)	805.8EML	適合
人工光により垂直面に対して150等価メラノピックルクス以上の維持照度が提供される	182.1EML	適合

【快適性】

74 外部騒音の侵入	WELL基準 [dB]	測定結果 [dB]	判定
会議室	50	23.3	適合
ワークスペース	50	30.5	適合
カンファレンスルーム	50	19.4	適合
個人ブース	50	21	適合

75 内部発生騒音	WELL基準 [NC]	測定結果 [NC]	判定
会議室	30	30	適合
ワークスペース	40	23	適合
カンファレンスルーム	30	20	適合
個人ブース	35	16	適合

76 温熱快適性	WELL基準	室温 [F]	湿度 [%]	判定
会議室(東側)	ASHRAE 55-2013	74.4	52.8	適合
会議室(西側)	ASHRAE 55-2013	76.0	51.8	適合
ワークスペース (東側)	ASHRAE 55-2013	79.2	56.3	適合
ワークスペース (西側)	ASHRAE 55-2013	79.4	54.7	適合
個人ブース	ASHRAE 55-2013	76.2	54.2	適合

3.3.3 Nourishment 必須項目を8項目全て、加点項目を7項目中3項目取得した。社員食堂メニューは、管理栄養士が健康診断の結果や運動量を考慮して給与栄養目標量を設定するなど監修を行っており、健康的なメニューとして評価された。なお、日米で基準が異なる栄養成分表示に関しては、AAPを適用して承認された。

3.3.4 Light 必須項目を4項目全て、加点項目を7項目中5項目取得した。7つのConceptで最も加点項目の取得割合が高かった。現地性能検証では、アンビエント照明の照度、人間の光受容感度を加味した新たな明るさ指標の等価メラノピック照度(EML)の基準に適合した。採光と眺望の評価に関しては、AAPを適用して承認された。

3.3.5 Fitness 必須項目を2項目全て、加点項目を6項目中1項目取得した。打合せスペースや給湯コーナーの分散・外周配置、内階段など、コミュニケーション誘発を目的とした動線計画は、屋内フィットネス動線として評価された。

3.3.6 Comfort 必須項目を5項目全て、加点項目を7項目中4項目取得した。温熱快適性では、ICタグによる空調の個別制御や、建物使用者が好ましい温度の作業スペースを選択できることが評価された。現地性能検証では、内部発生騒音、外部騒音、温熱快適性とともに基準に適合した。

3.3.7 Mind 必須項目を5項目全て、加点項目を12項目中7項目取得した。継続的に実施している入居後調査や、育児・介護休暇制度、チャリティ活動への補助プログラム、健康管理センターの設置やメンタルヘルサポートといった福利厚生に関連する施策に加えて、施設

内のアートワークや、施設を取り巻く自然豊かな環境が、情緒的な健康を育む施策として評価された。

4. まとめ

以上、WELLならびに日本で初めてWELLを取得した本館の認証取得に向けた対応内容の概要を示した。多くの項目がそのままWELL要件に適合したが、いくつかの項目や代替適合手段として提出したAAPはそのままでは承認されず、エビデンスや日本の法規・慣習に関する追加資料をIWBIに数回に渡り提出の上、最終的に承認を得た。今後は、この取り組みを通じて蓄積したノウハウを活用したお客様のWELL認証取得支援や、建物利用者の健康活動や地球環境への配慮行動に働きかけ、安全・安心、健康、快適を実現する建築計画、運用・管理手法の実現に取り組む。

参考文献

- 1) International WELL Building Institute: The WELL BUILDING STANDARD® v1 with 2018 Q1 addenda, 237p. , 2018
- 2) International WELL Building Institute: The WELL PERFORMANCE VERIFICATION GUIDEBOOK Applied to WELL v1 Q1 2018, 42p. , 2018
- 3) International WELL Building Institute: The WELL CERTIFICATION GUIDEBOOK v1 Q2 2017, 20p. , 2017